

## —編集後記—

今年度、本誌の編集体制が刷新されるにあたり、新たに編集委員として声をかけて頂いた。今私にご飯を食べさせて頂いているこの「土壌物理学」という学問に対して少しでも恩返しが出来ればとの思いで、微力ながらも力を尽くさせて頂きたいと考えている。さて、委員を拝命してすぐにある論文の担当となり、後述するように悪戦苦闘しながらも何とか査読のプロセスを一通り終えることが出来た。夏の農業農村工学会でお会いした編集幹事の渡辺先生より、「査読プロセスが最初に終了した編集委員に編集後記の執筆をお願いしたい」とのお話を受け、今この文を執筆している次第である。現在、他学会においても編集の仕事を担当させて頂いているが、あくまで編集作業の一部を分担しているだけであり、今回初めて査読者の選出から査読の終了までを一人で担当させて頂くこととなった。実際に編集者として仕事をしてみて、その作業が容易であったものから困難であったものまでさまざまであったが、予想外に大変さを感じたのは、「査読者の匿名性を維持するための事務処理」であった。査読者からの意見を取りまとめて著者に送る際、査読者が誰であるか分からないように書類等を整える必要があるが、決してミスが許されない作業である上に、類似す

る複数の書類を混同することなく扱う際に気を使う点が多くあり、生来几帳面とは言い難い性格の私にとっては、何度確認をしても不安感がぬぐえない、大変な作業であると感じた。今回このような気苦労があることを知ったと同時に、これまで自分が執筆した論文の数と同じだけ、この苦労をされた編集者がおられたことに改めて感謝した次第である。そして、編集委員をお引き受けした際から難しいであろうと予想していた通り、やはり実際に難しいと感じたのは、編集者と論文内容との関わりについてである。編集者は本来、複数の査読者の意見を取りまとめる立場にあるが、事務処理した書類を単に右から左へと流すロボットではなく、かといって第三の査読者として自分の満足するまで内容修正を求める者でもない。正直、未熟で経験も浅い自分にはそのさじ加減がまだ全く分かっていないというのが現状である。しかし、今回の仕事を通じて、このさじ加減を決める重要なキーワードの一つが「より良い論文のため」という言葉にあることだけは、分かった気がする。まずはこの言葉を胸に、本誌の発展に少しでも貢献できればと考えている。

齊藤忠臣（編集委員）

### 土壌物理学会

事務局構成	会 長	溝口 勝	(東京大学)	
	副 会 長	吉川 省子	((独) 農業環境技術研究所)	
	庶務幹事	吉田 修一郎	(東京大学)	
		西村 拓	(東京大学)	
	会計幹事	西田 和弘	(東京大学)	
	編集幹事	渡辺 晋生	(三重大学)	
	会計監査	吉迫 宏	((独) 農業・食品産業技術総合研究機構)	
		亀山 幸司	((独) 農業・食品産業技術総合研究機構)	
	編集委員会	委 員 長	取出 伸夫	(三重大学)
		委 員	江口 定夫	((独) 農業環境技術研究所)
小杉 賢一朗			(京都大学)	
齊藤 忠臣		(鳥取大学)		
千葉 克己		(宮城大学)		
釣田 竜也		((独) 森林総合研究所)		
中川 啓		(長崎大学)		
中野 恵子		((独) 農業・食品産業技術総合研究機構)		
橋本 洋平		(東京農工大学)		
宮本 輝仁		((独) 農業・食品産業技術総合研究機構)		
山口 紀子	((独) 農業環境技術研究所)			